



# こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.128

## 心をつなぐまちづくり 《ヘイトスピーチのない社会を目指して》

ここ数年、特定の民族や国籍の人々に対する差別的な言動や扇動行為などがヘイトスピーチと呼ばれ、社会的関心を集めています。ヘイトスピーチは人々に不安や嫌悪感を与え、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせるものです。インターネットの動画サイト等でも公開され、誰でも視聴できるようになっています。

このような情勢に対し、国際連合の自由権規約委員会や人種差別撤廃委員会から、ヘイトスピーチへの対策や対処を求める勧告も行われました。また、地方からも法整備を求める意見が多数出ています。国東市議会も平成27年12月議会で「ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める意見書」を採択し、国に送付しています。

このようなことから、平成28年6月3日に本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律が施行されました。「ヘイトスピーチ解消法」、「ヘイトスピーチ対策法」等と呼ばれます。

この法律は「日本以外の国や地域出身者への不当な差別的言動の解消のための基本理念や基本政策を定めて推進する」(第1条)ことを目的としています。そして第2条で「本邦外出身者の定義を、日本国外出身者およびその子孫で、国内に適法で居住していることとし、続く第3条では、ヘイトスピーチ解消への理解と、国民全体

で取り組むという基本理念を定めています。

このように、この法律は日本国外出身者やその子孫に対してのヘイトスピーチを規制するもので、ヘイトスピーチを受ける可能性のある人達(民族や社会的出身、性別、性的指向、障がいなど、ヘイトスピーチは多くの少数派(マイノリティ)といわれる人々に対して行われる可能性があり)すべてに対しての規制にはなっていない。しかし、衆参両議院から附帯決議が出され、条文の範囲以外のヘイトスピーチであれば許されるのではなく、法律の趣旨や日本国憲法、人種差別撤廃条約等の国際条約の精神から、きちんと対処することとされています。ですから実際には、あらゆるヘイトスピーチに対して、国民全体でその解消を目指していくための法律であるといえます。

一方で、ヘイトスピーチを行うことは憲法で保障された「表現の自由」・「言論の自由」だから規制することはできない。という意見があります。

しかし、ヘイトスピーチは「言論や表現の自由」とはいえません。憲法12条では、自由や権利を守るための国民の不断の努力と濫用の禁止が、同13条では、個人の尊重などは公共の福祉に反しない限り尊重されることと定められています。何を言っても自由であり、個人の権利の範囲内という訳ではありません。また、人種差別撤廃条約はその第4条で人種

差別に基づく扇動行為や思想の流布に対する処罰を締結国に求めており(日本はこの部分の批准を留保しています)、人種差別撤廃委員会や自由権規約委員会は、表現や言論の自由は無制限ではなく特別な義務や責任を伴うとし、ヘイトスピーチはこのような自由で伴うこと、ヘイトスピーチはこのような自由で伴うことを明言しています。ですからヘイトスピーチは明確な差別扇動行為であり、人権侵害であると言えます。

全ての人がお互いを認め合い、誰もが住みやすい地域づくりや人権尊重・多文化共生社会の実現のために、皆さんと一緒にヘイトスピーチの無い社会づくりを進めて行きたいと思ひます。

(文責:人権・同和対策課 河野)

### ●第10回国東市隣保館まつり「川柳」課題《まつり》応募作品

夏祭り  
声かけあって隣保館  
手を引いて  
孫と楽しむ夏祭り  
安岐町 河野 カズ子  
国東町 重吉 喜一郎

## 市長室からごんごんは

### 市長日記

#### 記念すべき大分キャノンのテクノ棟竣工

国東市長 三河 明史



師走に入って1日目の今日、12月1日、大分キャノン本社でテクノ棟の竣工式が執り行われました。テクノ棟とは、大分キャノン株式会社(以下大分キャノン)が、133億円もの金額を投資して建設した延べ床面積21,000㎡の3階建ての総合技術棟なのです。

大分キャノンは、数百名の研究者や技術者をあつめ、ここで生産技術の研究や製品技術の研究をすすめています。キャノンの御手洗会長は「ここは全ての工場のマザー工場だ。ここが世界戦略の本拠地になる。」とおっしゃっていました。これは素晴らしいことです。

人口減に悩む地元国東市にとって、これほど嬉しいことはありません。正に大分キャノン様様なのです。私は、キャノンについて、これまで良い思い出しかありません。

36年前当時、大分県庁で働いていた私は、企業誘致担当の一番下っ端の職員でした。昭和55年12月のある日曜日の朝、私は、自宅の玄関に朝刊を取りに行き、新聞を見て驚愕しました。その地元紙の第一面に「キャノン、安岐町に立地」と最大級の活字が躍っているのです。国東町出身の私は、「世界のキャノン」がまさか「陸の孤島」と言われた国

東半島に工場を作るなどと言うことは考えてもみませんでした。それを考えると大分空港が国東半島に開港したことの意義は極めて大きいものがあったのです。

大分キャノンは、その2年後の昭和57年12月に操業を開始し、カメラ、オートボイスシリーズの生産を始めました。それから34年が経過し、国東市安岐町の本社・安岐事業所だけで1,700名の社員が働く大工場となり、国東市の産業経済や雇用を力強く支えてくれたのです。

また、4年前に大分市のホテルで開かれた創業30周年記念式典に私も招かれ、製造番号1番のカメラEOS 5D Mark IIIを国東市に贈呈していただきました。

そして今回、本社・安岐事業所内に総合技術棟となるテクノ棟を建設していただいたのです。この大きな建物の中で数百名の研究者や技術者が仕事することになるそうで、考えただけでも胸がワクワクします。

私も行政はこの大分キャノンの決断に応え、全力を挙げて応援して行かなければなりません。キャノン株式会社として大分キャノン株式会社の更なる発展を祈ります。

## 図書館だより

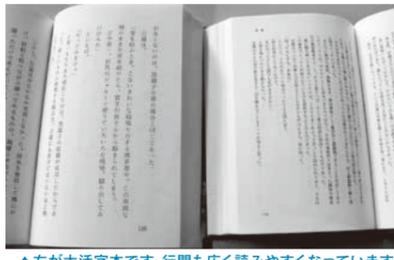
# どくしょがいちばん!

### 大活字本あります。

「本を読みたいけど、字が小さいので読みづらい。」という方におすすめなのが、大活字本です。大活字本の文字の大きさは、文庫本などの文字の大きさの、なんと約2倍の大きさなのでとても読みやすくなっています。

しかし他の本に比べれば、まだまだ大活字本の数が少ないことも事実です。図書館としてはこれからも大活字本の蔵書を増やしていこうと思ひますので、どうぞご利用ください。

問合先	
国見図書館	☎0978-82-1585
くにさき図書館	☎0978-72-3500
武蔵図書館	☎0978-69-0946
安岐図書館	☎0978-67-3551



▲左が大活字本です。行間も広く読みやすくなっています。

## 司書のオススメ

### 『ラストレシピ 麒麟の舌の記憶』 田中 経一/著 幻冬舎/出版

麒麟の舌(絶対味覚)を持つ料理人・佐々木は、中国料理界の重鎮・楊晴明から同じく麒麟の舌をもつ料理人の山形直太朗が、70年前満州で作った“大日本帝国食全席”を再現してほしいという依頼を受けます。佐々木はレシピを見つけるため関係者に会い、そのレシピに隠された真実に迫っていきます。

なぜ“大日本帝国食全席”が作られたのか?なぜ、山形直太朗は終戦間際殺されたのか?楊はなぜ今になってレシピを再現しようとするのか?そもそも料理とは何のために作られるものなのか?それは読んでのお楽しみ。

この作品は嵐の二宮和也主演で2017年秋に映画公開予定です。

## 図書館に寄つてよくね

Q. その本は綾辻行人のデビュー作で「館シリーズ」の第1作目。大分県が舞台の「そして誰もいなくなった」風のミステリー小説といえは? 答えは図書館で!